

## 成績上位ほど「努力すればたいいのはできる」と感じている

中1生から中2生にかけて、「努力すればたいいのはできる」の比率が減少し、「自分がかんばっても社会を変えることはできない」の比率が増加する。これらを成績別にみると、上位の子どもほど「できる」と感じている傾向にある。また、子どものほうが保護者より比率が高いのは、「人生で起こったことは本人の責任だ」「競争に負けた人が幸せになれないのは仕方ない」である(5～15ポイント差)。特に、男子は女子に比べて「競争に負けた人が幸せになれないのは仕方ない」と回答している。


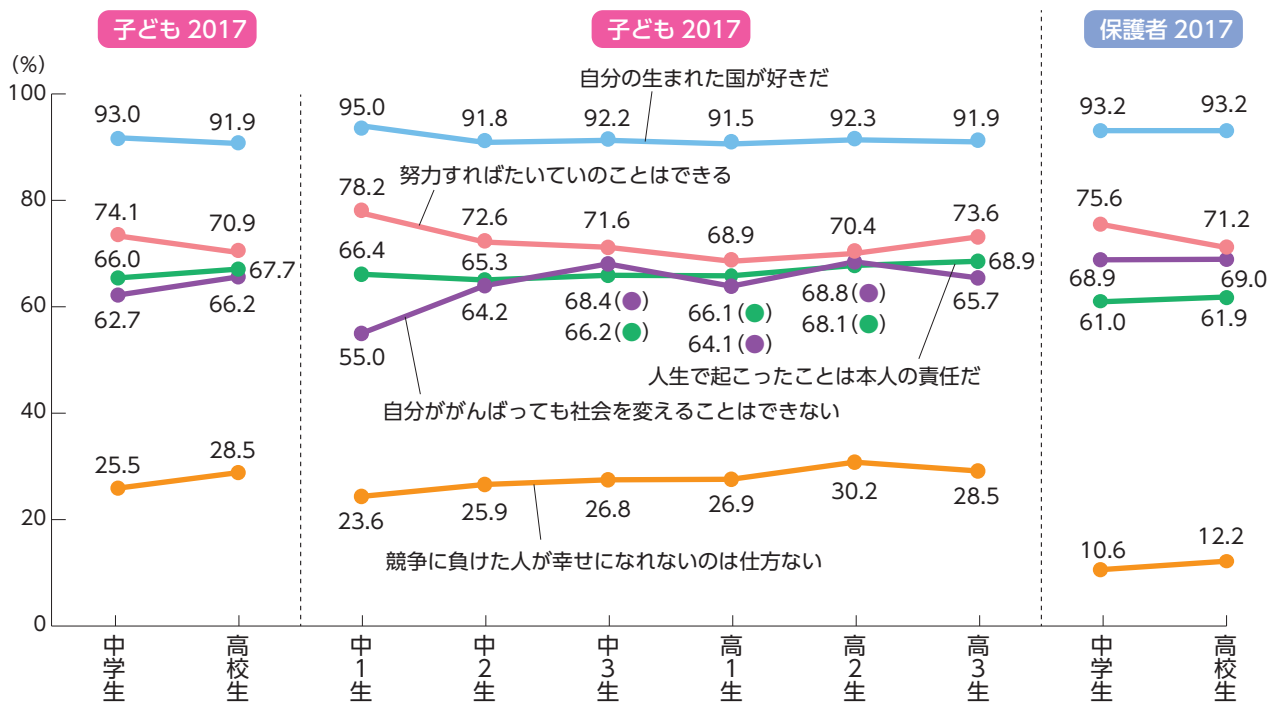
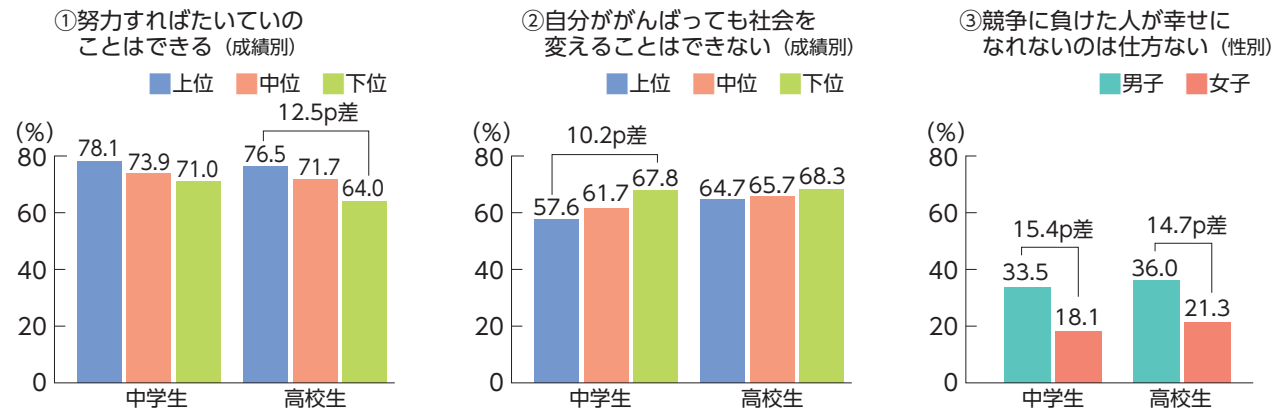
**子ども**  
**保護者**  あなたは、次のことについてどう思いますか。

図5-1 社会や競争についての意識(学校段階別、学年別)



子ども 2017 図5-2 社会や競争についての意識(学校段階別・成績別、性別)



注1 小学生には尋ねていない(図5-1、図5-2)。  
 注2 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の% (図5-1、図5-2)。  
 注3 成績は、学年中での自己評価(国数理社英の5教科についてそれぞれ5段階で回答)について総合得点を算出し、学校段階ごとに人数が均等になるように、「上位」「中位」「下位」の3つに分類した(図5-2)。  
 注4 成績別の上位と下位、または性別で10p以上差があるものに、p差を示している(図5-2)。

## 「世の中の人には信頼できる」と回答した子どもは約4割

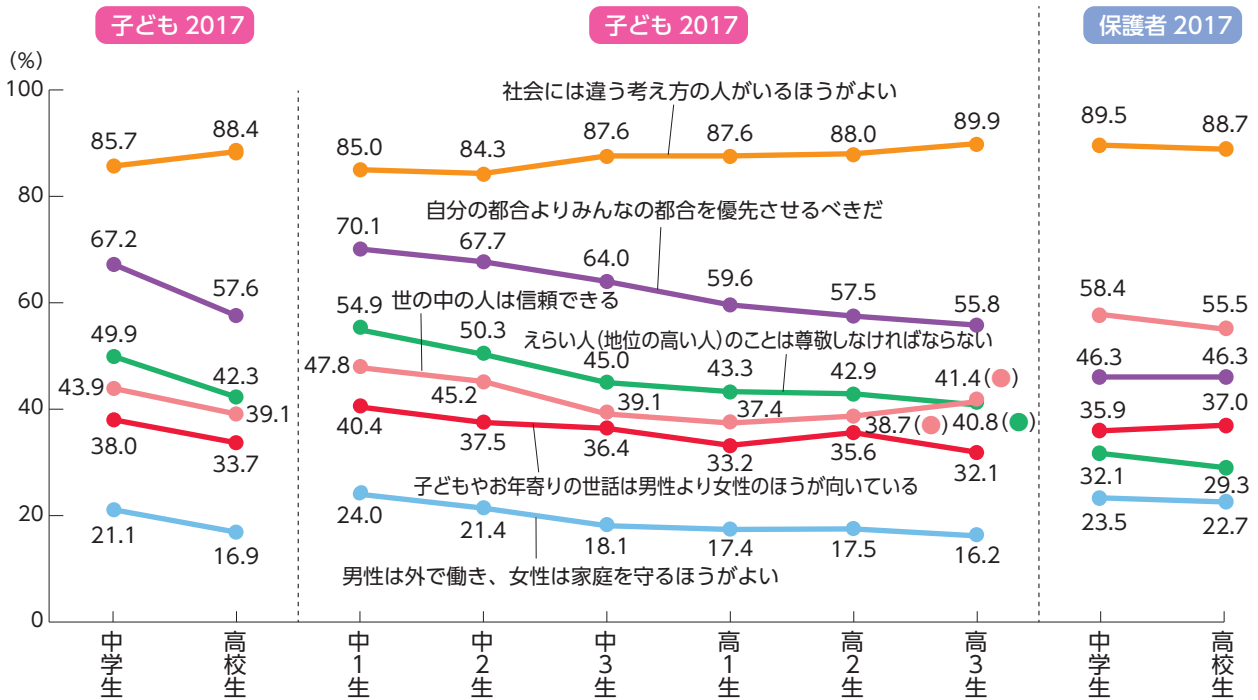
「社会には違う考え方の人がいるほうがよい」の比率は、どの学年でも8割台と高い。一方で、「自分の都合よりみんなの都合を優先させるべきだ」は、中1生から高3生にかけて約15ポイント低下して5割台になり、「世の中の人には信頼できる」も、中1生から高1生にかけて約10ポイント低下して4割弱になる。「世の中の人には信頼できる」の比率は、保護者より子どものほうが10ポイント以上低いのも特徴である。性別では、「男性は外で働き、女性は家庭を守るほうがよい」で差が大きく、男子の方が肯定している。

子ども  
保護者



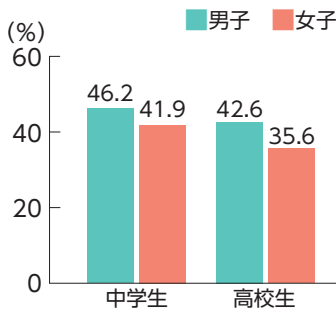
あなたは、次のことについてどう思いますか。

図5-3 社会や人についての意識(学校段階別、学年別)

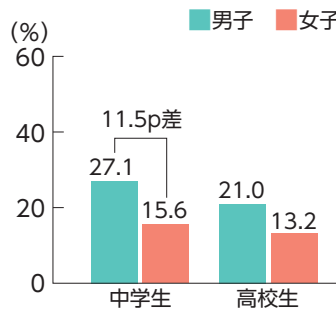


子ども 2017 図5-4 社会や人についての意識(学校段階別・性別)

①世の中の人には信頼できる(性別)



②男性は外で働き、女性は家庭を守るほうがよい(性別)



注1 小学生には尋ねていない(図5-3、図5-4)。  
 注2 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の% (図5-3、図5-4)。  
 注3 性別で10p以上差があるものに、p差を示している(図5-4)。

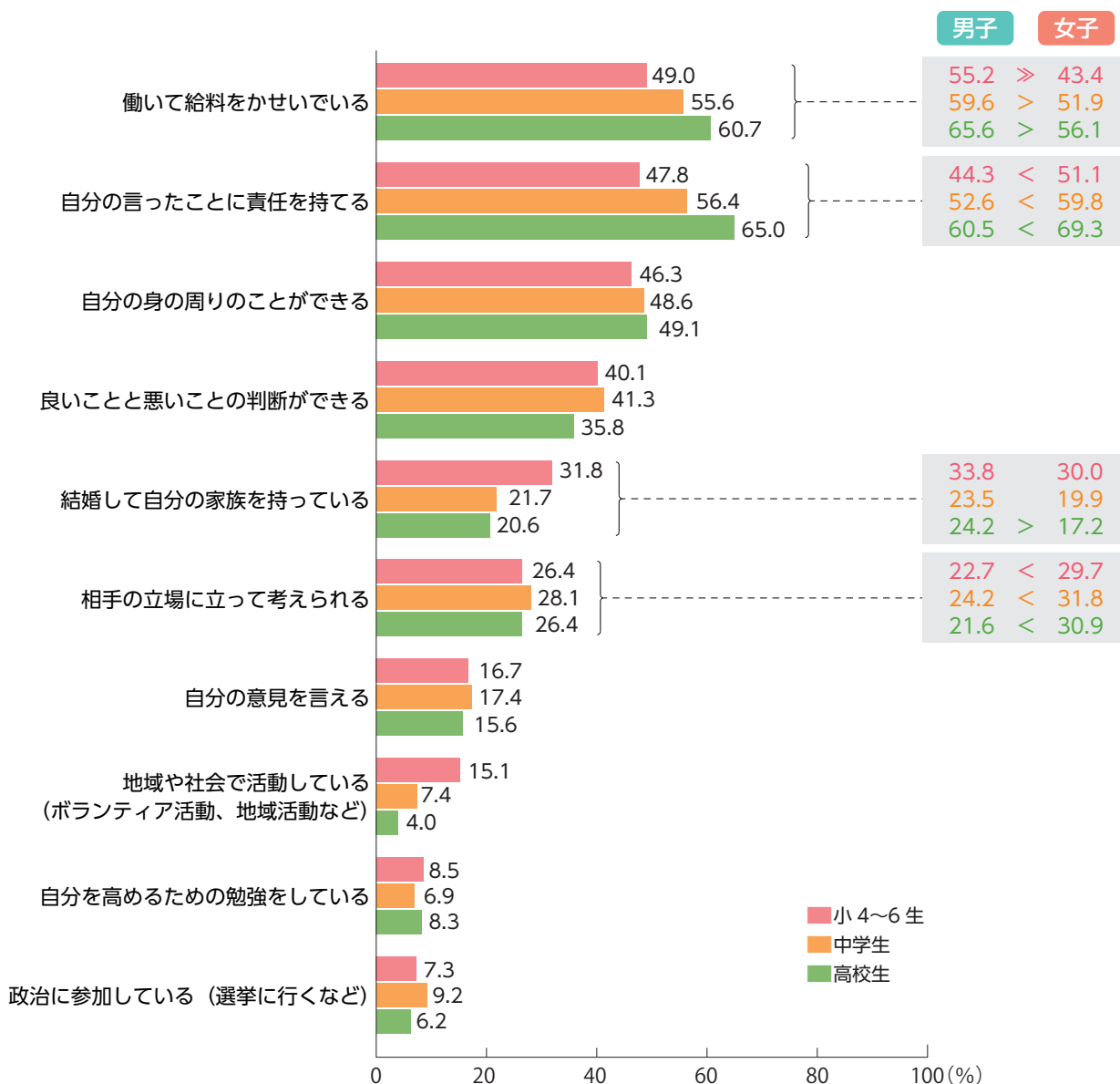
## 「大人」とは、「給料をかせいでいる」「言ったことに責任を持てる」

「一人前の大人」のイメージのTOP2は、「働いて給料をかせいでいる」「自分の言ったことに責任を持てる」で、小4～6生の約半数、高校生の6割強が選択している。「政治に参加している」の選択率はこのなかでは低い。性別にみると、男子のほうが高いのは、「働いて給料をかせいでいる」「結婚して自分の家族を持っている」、女子のほうが高いのは、「自分の言ったことに責任を持てる」「相手の立場に立って考えられる」である。



あなたは、「一人前の大人」とはどのような人だと思いますか(3つまで選択)。

子ども 2017 図6-1 「一人前の大人」のイメージ(学校段階別、性別)



注1 あてはまるものを3つまで選択してもらった。

注2 いずれかの学校段階で、性別で5p以上差がある場合に、性別の数値を示した。また、10p以上差がある場合は<>>を、5p以上10p未満の差がある場合は<>をつけた。

## 男子は「スポーツ選手」、女子は「お母さん」「先輩」「芸能人」

「あの人のようになりたい」と思う人が「いる」子どもは、小4～6生で約7割、中高生で6割前後である。「なりたいたい」と思う人がどのような人かは、学校段階や性別によって異なり、男子は、小中学生を中心に「スポーツ選手」「科学者や研究者」など社会的に活躍する人があがっている。女子は、「芸能人」のほか、小学生は「お母さん」、中学生は「上の学年の人(先輩)」など身近な人が多くあがっている。

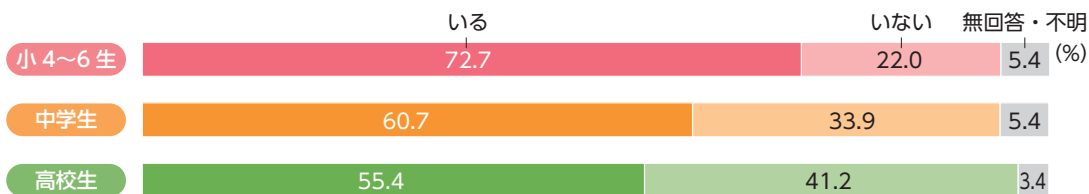
Q

あなたが「あの人のようになりたい」と思う人（あこがれや目標とする人）はどのような人ですか（1つ選択）。

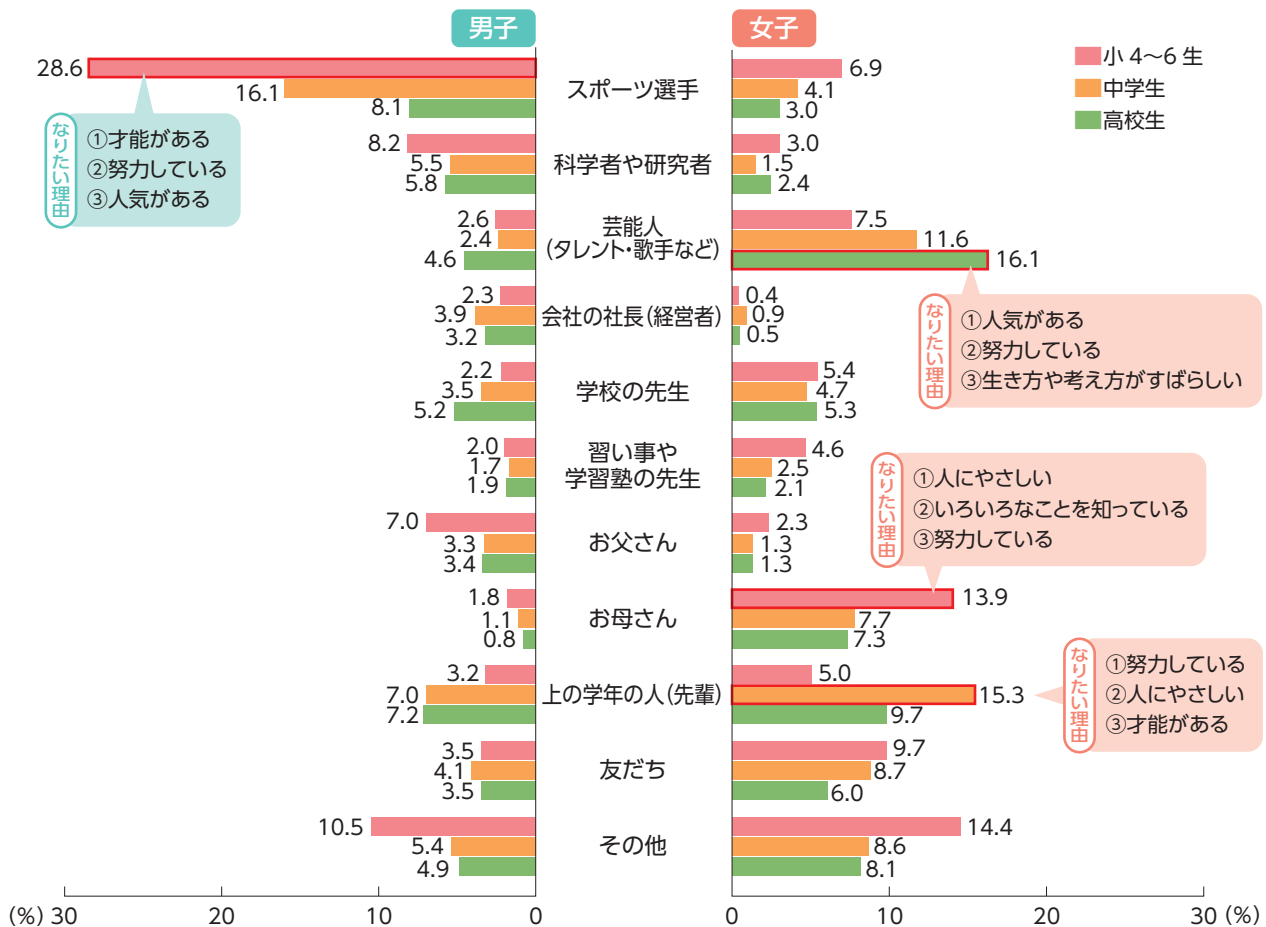
Q

あなたが「あの人のようになりたい」と思う理由はなんですか（1つ選択）。

子ども 2017 図6-2 「あの人のようになりたい」と思う人がいるか（学校段階別）



子ども 2017 図6-3 「なりたいたい」と思う人とその理由（学校段階別・性別）



注1 「いる」は、図6-3の選択肢のうちどれかを選択した人、「いない」は「いない」を選択した人（図6-2）。

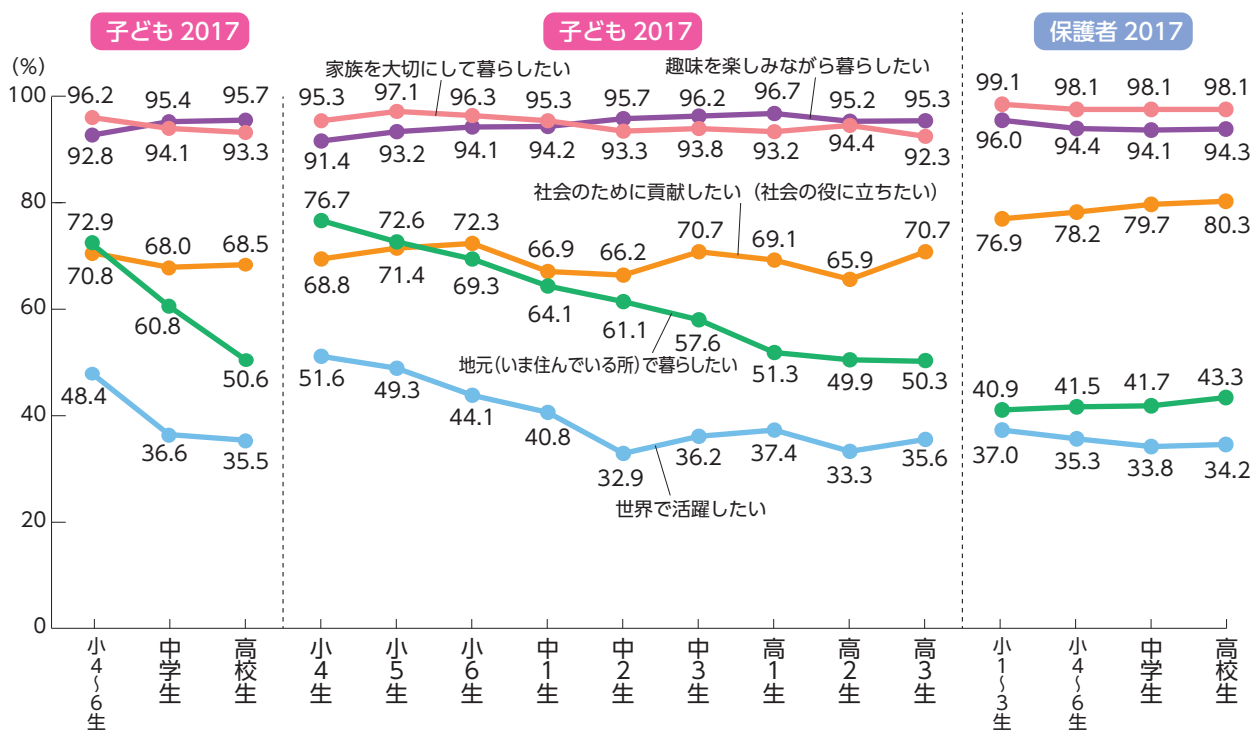
注2 「なりたいたい人」、および「なりたいたい理由」は、それぞれ選択肢から1つ選択してもらった。「なりたいたい人」の回答で比率が比較的高かったものについて、「なりたいたい理由」の上位3つを示している（図6-3）。

## 将来は「家族を大切に」「趣味を楽しみながら」暮らしたい

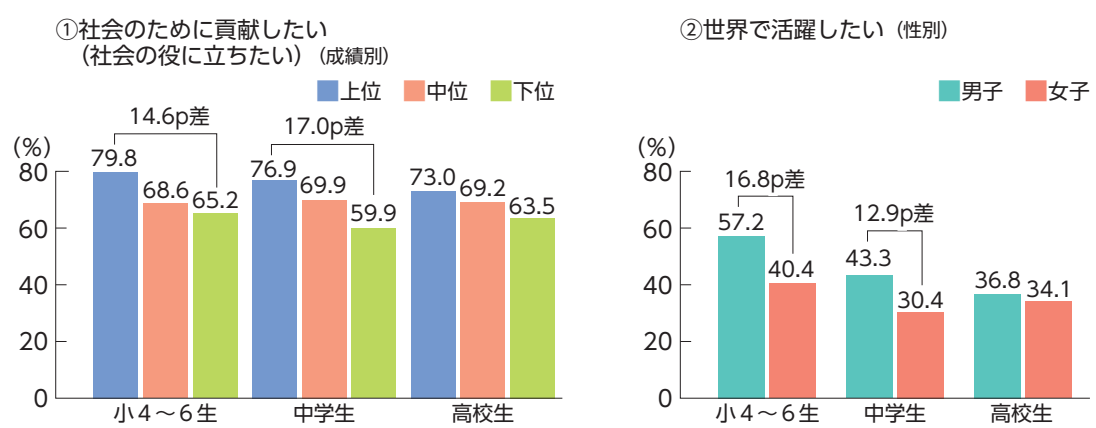
親子とも、「家族を大切に暮らしたい(暮らしてほしい)」「趣味を楽しみながら暮らしたい(暮らしてほしい)」が、どの学校段階でも9割台と高く、「社会のために貢献したい(貢献してほしい)」も、子どもは7割前後、保護者は7～8割と高い。一方、子どもは、「地元で暮らしたい」が、小4生から高3生にかけて25ポイント以上、「世界で活躍したい」が小4生から中2生にかけて15ポイント以上低下する。また、成績別では、上位の子どもほど「貢献したい」の比率が高く、性別では、男子ほど「世界で活躍したい」の比率が高い。

- 子ども** Q あなた自身の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。
- 保護者** Q お子様の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図7-1 将来の生活について(学校段階別、学年別)



子ども 2017 図7-2 将来の生活について(学校段階別・成績別、性別)



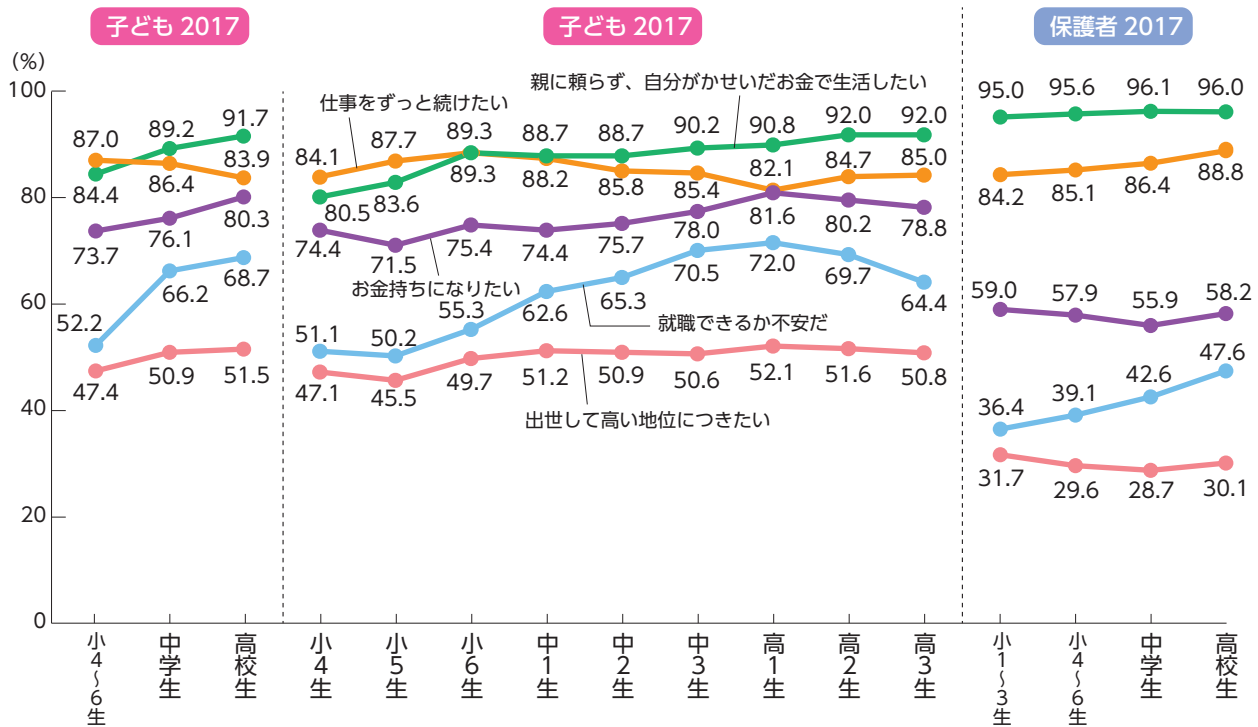
注1 保護者には、「～してほしい」かどうかを尋ねている(図7-1)。  
 注2 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% (図7-1、図7-2)。  
 注3 成績は、学年の中での自己評価(小4~6生は国算理社の4教科、中学生は国数理社英の5教科についてそれぞれ5段階で回答)について総合得点を算出し、学校段階ごとに人数が均等になるように、「上位」「中位」「下位」の3つに分類した(図7-2)。  
 注4 成績別の上位と下位、または性別で10p以上差があるものに、p差を示している(図7-2)。

## 子どもは、保護者に比べて「お金持ちになりたい」「高い地位につきたい」と回答

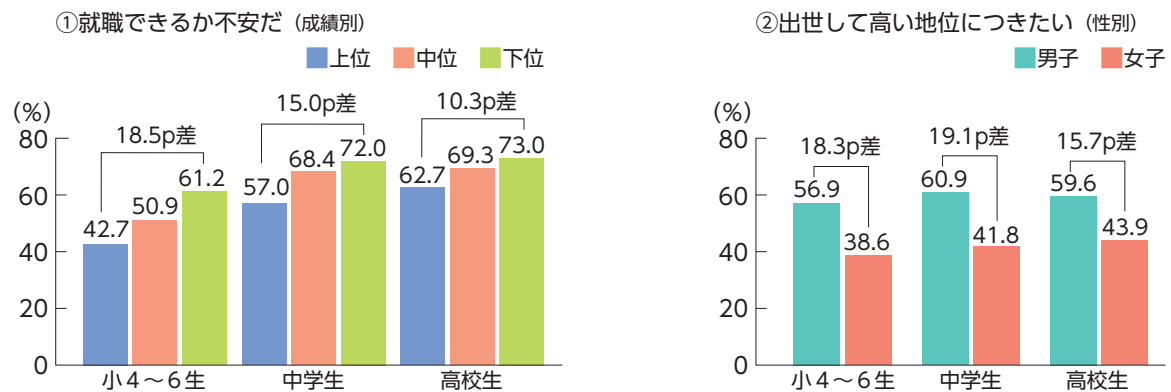
「親に頼らず、自分がかせいだお金で生活したい」「仕事をずっと続けたい」と回答した子どもは、どの学校段階でも8～9割台と高く、保護者の比率に近い。一方、「お金持ちになりたい」「就職できるか不安だ」「出世して高い地位につきたい」は、子どもの比率のほうが高く、保護者と約15～20ポイント差である。成績別では、下位の子どもほど「就職できるか不安だ」、性別では、男子ほど「高い地位につきたい」と回答している。

- 子ども** **Q** あなた自身の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。
- 保護者** **Q** お子様の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図7-3 将来の仕事やお金について(学校段階別、学年別)



子ども 2017 図7-4 将来の仕事やお金について(学校段階別・成績別、性別)



注1 保護者には、「～してほしい」かどうかを尋ねている。「就職できるか不安だ」は保護者も同じ尋ね方をしている(図7-3)。  
 注2 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% (図7-3、図7-4)。  
 注3 成績は、学年の中での自己評価(小4~6生は国算理社の4教科、中学生は国数理社英の5教科についてそれぞれ5段階で回答)について総合得点を算出し、学校段階ごとに人数が均等になるように、「上位」「中位」「下位」の3つに分類した(図7-4)。  
 注4 成績別の上位と下位、または性別で10p以上差があるものに、p差を示している(図7-4)。

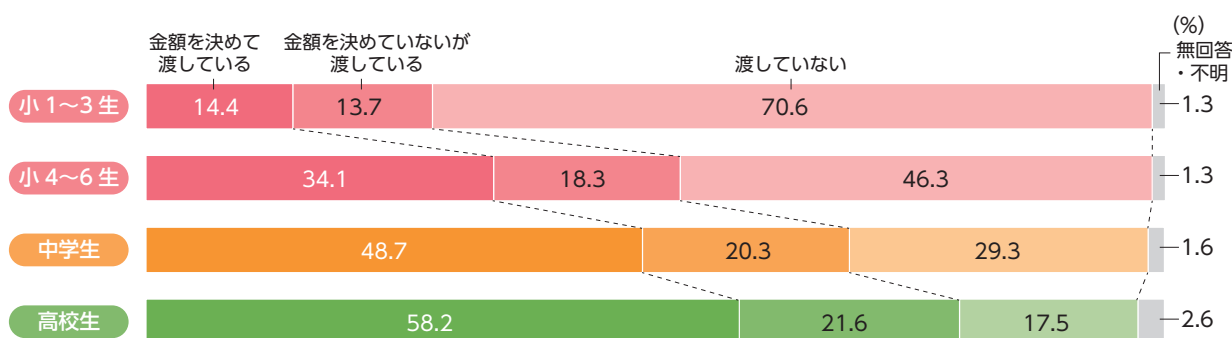
## おこづかいの「金額を決めて渡している」は高校生保護者で6割弱

おこづかいの「金額を決めて渡している」保護者は、小1～3生で1割台、高校生で6割弱である。また、「金額を決めていないが渡している」保護者も比較的多く、中高生で約2割である。おこづかいの月額をみると、小1～3生は「500円未満」、小4～6生は「500～1,000円未満」、中学生は「1,000～2,000円未満」の比率が高い。高校生は、金額のばらつきがみられる。



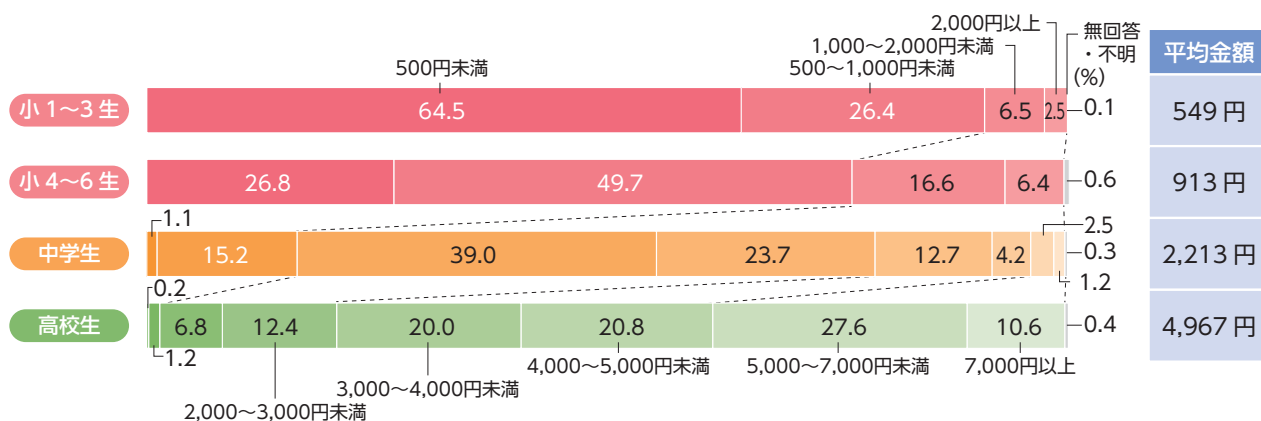
お子様におこづかいを渡していますか。

保護者 2017 図8-1 おこづかいを渡しているか(学校段階別)



お子様に渡している金額は、月にいくらくらいですか。おこづかいの金額を決めていない方も、お子様に渡しているだいたいの月額をお答えください。

保護者 2017 図8-2 渡しているおこづかいの月額(学校段階別)



注1 図8-1で「金額を決めて渡している」「金額を決めていないが渡している」と回答した人に尋ねている(図8-2)。

注2 中高生の「7,000円以上」は、「7,000～10,000円未満」+「10,000～20,000円未満」+「20,000円以上」の%。小学生の「2,000円以上」は、中高生で示している「2,000～3,000円未満」～「7,000円以上」の合計の%(図8-2)。

注3 平均金額は、「500円未満」を250円、「500～1,000円未満」を750円、「20,000円以上」を25,000円のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図8-2)。

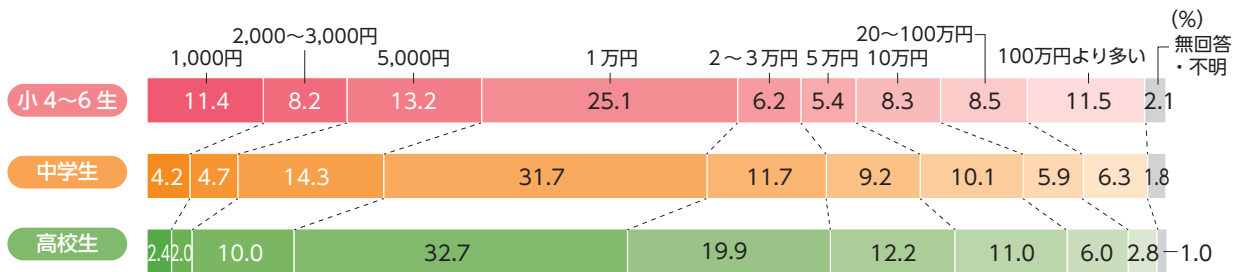
## 「大金」のイメージは、「1,000円」から「100万円より多い」まで個人差がある

子どもに「大金」だと思ふ金額を尋ねたところ、どの学校段階でも「1万円」と回答した比率が高い。しかし、小4～6生は、「1,000円」の回答も、「100万円より多い」の回答も1割強であり、子どもによってばらつきがみられる。また、もらいたいおこづかいの月額をみると、小4～6生は「500～1,000円未満」、中学生は「1,000～2,000円未満」の比率が高い。ただし、保護者の回答(図8-2)と比べると、子どもがもらいたいおこづかいのほうが、どの学校段階でも平均金額で2,000円程度多い。



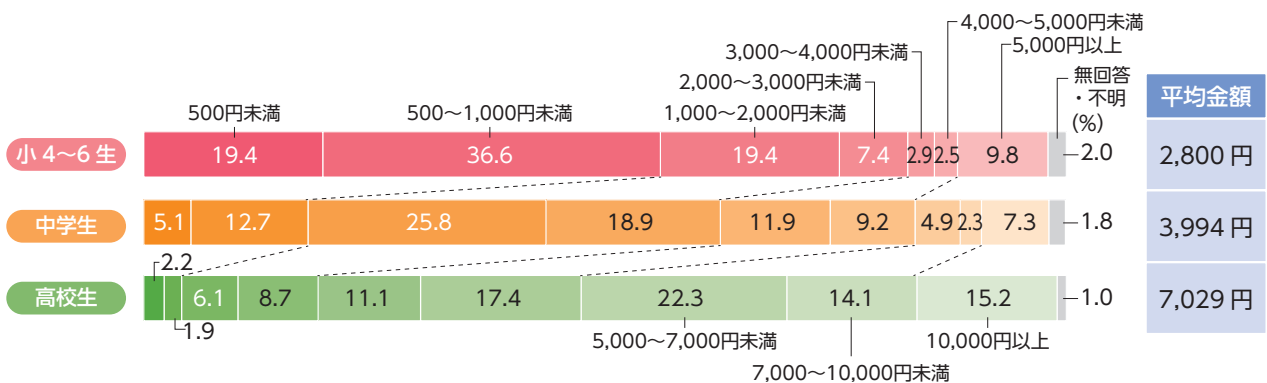
あなたにとって「大金」だと思ふ金額を教えてください(1つ選択)。

子ども 2017 図8-3 「大金」だと思ふ金額(学校段階別)



あなたが1か月にもらいたい「おこづかい」の金額を教えてください(1つ選択)。

子ども 2017 図8-4 もらいたいおこづかいの月額(学校段階別)



注1 「20～100万円」は、「20～30万円」+「50万円」+「100万円」の% (図8-3)。

注2 おこづかいをもらっていない子どもも回答している(図8-4)。

注3 中高生の「10,000円以上」は、「10,000～20,000円未満」+「20,000円以上」の%。小4～6生の「5,000円以上」は、中学生で示している「5,000～7,000円未満」～「10,000円以上」の合計の% (図8-4)。

注3 平均金額は、「500円未満」を250円、「500～1,000円未満」を750円、「20,000円以上」を25,000円のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図8-4)。